宮城県看護協会

気仙沼支部だより 2号

令和６年１月発行

責任者　支部長　水戸恵美子

支部長あいさつ

新春　明けましておめでとうございます。今回は昨年開催されましたイベントの報告です。南三陸福祉健康まつりは活気あふれるイベントで、逆に元気を頂いてきました。地域ネットワーク交流会では「その人らしく生きるを支えるため」をテーマに、施設・病院・在宅の症例を聞き、職種を超えた意見交換が活発に行われました。復活した管理者ネットワーク交流会では、地域の病院施設行政が緊密に連携していくことの大切さと、顔の見える関係が構築され、実際に病院－在宅と連携し患者の元に訪問しケアに当たった事例を目の当たりにし、手応えを感じています。平時に戻り再開されたイベントは全て活気あふれるものとなっていました。今年も地域住民の生活を支える看護職であるために、支部の活動にご協力をお願いいたします。

気仙沼支部研修会と地域ネットワーク交流会

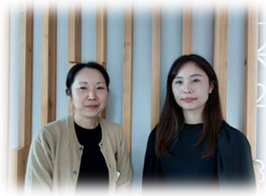
R5 年 10 月 28 日（土）気仙沼市立病院にて研修会と地域ネットワーク交流会が開催されました。“その人らしくよりよく生きるを支える”をテーマに、施設・病院・在宅から症例発表をして頂き、その症例に対しての意見交換を行いました。施設の発表は、コロナ禍で面会や外出が制限された中、ADL・食欲・認知機能低下のため、在宅復帰困難にて施設入所になった方を、ご本人とご家族の意向を確認しながら自宅退所を調整したケース。病院の発表は、全身状態不良、感染褥瘡を多発した独居高齢者の症例で、褥瘡の処置のために施設入居が困難になり、息子さんの自宅近隣の療養型病院を転々とした症例。在宅の発表は、ALS で人工呼吸器を装着している方で、コミュニケーション機器を使用し外出や車いす散歩をし、意志決定を支えていった症例でした。3 症例の共通している部分は、ご本人・ご家族の意向を確認しながら今後の療養先や過ごし方を検討したところではありますが、当地域では、独居、老々介護、キーパーソンが遠方などで、自宅退院が困難なケースが多く「ちょっと入院、ほぼ在宅」へ移行できないケースが増加しています。“病気と老い　その人が納得した選択を支えるために私たちができること”は何かを参加者でグループワークを行いました。職種が変われば視点も考え方も変わり、どのグループからも、3 症例を前向きにとらえた活発な意見交換がされました。“意向を確認する”“意志決定を支える”コロナ禍で Zoom 等が普及しコミュニケーションツールが増えたのは良い環境ですが、やはり顔を合わせて思いを伝え合う。当たり前にできていたことが、実はとても大切だったことに気づくことができた研修会・地域ネットワーク交流会になりました。

グループワークの様子

講師の方々と支部長

参加者の感想

東條皮膚科クリニック
山下さん（ひだり）
南三陸病院
佐藤さん（みぎ）



山下さん

10 月 28 日、宮城県看護協会気仙沼支部主催の地域ネットワーク交流会に参加させていただきました。「その人らしくよりよく生きるを支える」と題し、施設･病院･在宅での事例発表がありました。事例発表後には、3 つの事例を踏まえ「より良く生きる･より良い最期を迎えるために、私たち医療者が提供すべきことは何か」をテーマにグループワークが行われました。介護、看護、ケアマネジャー等様々な職種の方々とディスカッションすることができました。いろんな場面でいろんな職種の方が携わる中で、**本人の意思**の大切さを改めて考えさせられる研修会でした。事例を通して関わった方々との振り返りや研修会があってもいいのではないかとの意見もありました。振り返ることで次に繋げる何かを発見できることもあるかと思います。私自身、まだまだ地域との交流ができていない状況にあると感じています。私に何が出来るのかを考え、得意分野の情報発信を行いながら今後もいろんな職種の方々と関わることができたらと思います。気仙沼支部の役員の方々、今回このような交流会を開催して頂き、いろんな職種の方々と研修する機会を与えて頂きありがとうございました。

名司会者芳賀さん

芳賀さんはちょっとした
キーワードを拾い、
話を盛り上げるプロなのです。
毎年、司会をお願いしています。

佐藤さん

今回「その人らしくよりよく生きるを支える」というテーマに惹かれ参加しました。題名の通り3 名の先生方の事例は施設、病院、在宅それぞれの場でその人らしく生きるために本人、家族の意思を見出し尊重し医療従事者として関わっている内容でした。

その人らしく生きるとは簡単なようですがなんらかの疾患や障害により我慢を虐げられていたり自分の意思を表現できないでいることも多くあると思います。私たちは適切に情報提供を行い、その方がどこで誰とどのように生きていきたいかなど本人の意思を尊重し時間をかけながら意思決定できるよう支援していくことの大切さを改めて考えることができました。

私は病院で勤務しているので患者さんがその人らしく療養生活を送れるよう今後どのように生きていきたいか意思決定を行っていけるよう信頼関係を築きながら援助していきたいと思います。

気仙沼保健福祉事務所　三戸さん

今回の研修のテーマは「その人らしくよりよく生きるを支える」。介護保健施設、病院、居宅介護支援事業所のそれぞれの事例から、「その人らしく生きる」を支えるために、どのような関わりの工夫をしているのかを知ることができた。

どの事例もキーワードとなるのが「本人、家族の意向」だったと思う。特に自分の意思表示が難しい方についてはどのように意向確認をするのか、ということが課題になると感じた。その課題を一人の支援者が抱えるのではなく、対象者に関わっている人が意見を出し合ってどのように支援していくかを考えていることが印象的だった。

「その人らしく」というのは全世代に当てはまるキーワードである。今回の事例は高齢者が主であったが、例えば精神障害者や若年層の難病など、様々な世代、生活背景、家族関係など多様な事例があると思った。一つとして同じ事例はないため、今回の交流会のように多職種が連携して支援していくことが重要だと感じた。今回の研修から学んだことは、自分の職種の専門性を高めるとともに、他分野の職種と連携する力をつける必要があるということだ。

ケア相談センターひまわり　佐藤さん

ケアマネジャーと言う職種柄、ケアマネジャー協会副支部の小松先生の、ALS でもコミュニケーション機器で思いを伝えられる方の事例で、「情報提供は私たちだが、決定はご本人」と言う話が心に残りました。　言葉が話せなくても意志や感情を表現できるよう支援するのが我々であり、評価を入れず相手の立場で共感しながら理解する、同じ問題は無くカテゴリー化パターン化しない、など、常に心に置かなければなりません。

また、科学的介護や地域医療と言う言葉が流行っているが地域の向こうにある一人ひとりの暮らしを見つめなければならないのでは、との話では、言葉が独り歩きして方法が目的になってしまわぬよう、誰の何のために我々が有るのかを忘れてはならないと感じました。

グループワークでは各職種の役割や範囲の質問もあり理解が深まりました。また、当事者が参加したらどのような感想が出るか伺ってみたいと感じました。

皆さんの感想を読んでいると、研修会の内容がよみがえってくるようです。ご協力ありがとうございました！

顔がみえて繋がった　管理者ネットワーク交流会

R5 年 12 月 2 日（土）に管理者ネットワーク交流会が開催されました。十数年前に、管理者ネットワーク交流会を始めた気仙沼。超高齢社会の先駆けとなっている地域で“その人らしく、よりよく生きるを支えるために”その人の意思・意向にそえるようにするためには・・・。　はじめに、水戸支部長から、看護師等の確保を促進するための措置に関する基本方針が告示され、30 年ぶりの改訂になったこと、その改定のポイントが分かりやすく説明され、看護管理者として、自らの施設だけでなく、地域の病院や施設、行政と緊密に連携をする能力が求められていると感じていること、顔の見える関係で、地域住民の生活を支えるためにも看護職連携に繋げたいとお話しがありました。また、石井会長から、地域包括ケアを支える看護職連携というタイトルで、看護協会の取り組みや、社会的状況を含めたその背景、気仙沼地域のデータや地域性が見えるデータを用いながら、地域で期待される看護職についてのお話がありました。当地域の 3 点の課題①ちょっと入院、ほぼ在宅のほぼ在宅に移行できない状況にある。②独居、キーパーソンが遠方、老老介護など、在宅困難ケースが増加している。③中間施設から在宅へ戻る人が少ない現状をどうしていくべきか。“病気と老い　その人が納得した選択を支えるために私たちができること”をテーマに各施設の現状や日々感じていること、課題、取り組んでいること等の意見交換が行われました。この 3 点は、どこの施設も課題となっており、苦悩していることも分かりました。しかし、それぞれが工夫をしている点や、他施設への要望もあり、すぐにでも取り組めることがあることも分かりました。ご本人やご家族の意思や意向にそうためには、ただ、サービスをたくさん入れるのではなく、サポートをしてほしいタイミングで、してほしい内容、時間を提供できることが必要で、そのためには、施設の役割や垣根を越えて柔軟に対応、創造をしていくこと、顔のみえる環境・関係づくりを続けることが必要だと分かりました。「意思決定の場では、理想を出してしまいがちですが、患者、家族の思いを尊重することの大切さを改めて感じた研修会でした。」という高見副支部長の閉会の挨拶が胸にストンと落ちた研修会でした。

南三陸福祉健康まつりに参加しました！

R5 年 11 月 11 日（土）ベイサイドアリーナにて、南三陸福祉健康まつりが開催されました。看護協会の役員数名で健康相談のブースを担当させていただき、市民の皆さんとお話をする機会がありました。肌年齢、血管年齢等の測定コーナーは人気で、実年齢と比較し一喜一憂する姿にこちらもほっこりしたり、実際に測定値に異常があり、自覚症状の確認をしたことで受診を進めたケースもありました。当日、風が強かったのですが、その風に負けない迫力の太鼓で始まるオープニングセレモニー、活気あふれる南三陸町から元気をもらえた一日になりました！皆さんもぜひ、はまってけらいん。

R5年度支部活動のご報告

4/28	気仙沼支部総会（参集＋Zoom）
5/13	看護のひろば
6/4	気仙沼市健康づくりフェスタ
8/10	ふれあい看護体験
10/28	研修会と地域ネットワーク交流会

12/2	管理者ネットワーク交流会
R6.4/26	気仙沼支部総会（予定）
その他	
5/2.6/9.9/1.10/6.10/28.11/17.2/2（予定）	
気仙沼支部役員会	
10 月.1 月	
支部だより発行	

交流会に参加された方々

大人気のかんごちゃんと一緒に！

南三陸福祉健康まつりは、R5 年6月に行われた気仙沼の健康づくりフェスタともまた違う活気がありました。
色々なイベントに参加をして、その土地のものを食べたり、飲んだり、おしゃべりをしたり・・・
『人混みがパワースポット』と話している恩師がいたのですが、その意味が分かる気がしました。

編集後記

気仙沼支部だよりは、イベントの復活とともににぎやかな紙面になりました。写真や原稿の投稿にご協力を下さいました皆様に深く感謝いたします。

コロナ禍は、イベントの中止や代替え案に悩まされましたが、Zoom ミーティングなど、IT を活用したネットワーク社会になったことも確かです。しかし、コロナ禍が明けると、皆が様々な場所に足を運び行きかう日常が戻り、また、それを望んでいたことも分かりました。来年度のイベントでも、新しい出会いと、楽しい企画で、看護に興味を持ってもらえるように気仙沼支部役員一同頑張りたいと思います。また、新会員の方もお待ちしております。今後も支部活動と投稿に、ご協力下さいますようお願い致します。